

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月13日

【四半期会計期間】 第37期第3四半期(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時 機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安 部 一 夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安 部 一 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第 3 四半期 連結累計期間	第37期 第 3 四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日	自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日	自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日
売上高 (千円)	13,011,569	12,898,260	17,481,099
経常利益 (千円)	387,508	288,535	634,302
四半期(当期)純利益 (千円)	215,271	349,472	342,373
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	213,592	356,387	344,727
純資産額 (千円)	5,262,895	5,747,161	5,393,448
総資産額 (千円)	13,750,941	14,455,440	15,262,233
1 株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	10.06	16.34	16.00
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	9.89		15.74
自己資本比率 (%)	38.2	39.8	35.3

回次	第36期 第 3 四半期 連結会計期間	第37期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月 1 日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月 1 日 至 平成26年12月31日
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	3.24	1.09

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第37期第 3 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策により企業収益の向上や雇用環境の改善傾向が見られ、緩やかな景気回復基調が続いているものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減からの回復の鈍さが長期化しており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、円安等による原材料価格の上昇及び人手不足を背景とした人件費関連コストの上昇等、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの充実に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高128億98百万円（対前年同期比0.9%減）、営業利益4億27百万円（対前年同期比2.6%減）、経常利益2億88百万円（対前年同期比25.5%減）、四半期純利益3億49百万円（対前年同期比62.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は198店舗であります。内訳は直営158店舗、暖簾6店舗、F C 34店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「GWハッピー大皿セットフェア」、「ヘルシー！オージービーフェア」、「生ビール&焼肉スクラッチフェア」、「冬の紅白石鍋合戦」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや冬季限定「ホット生チョコデザート」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は110億4百万円（対前年同期比0.7%減）となり、セグメント利益（営業利益）は6億94百万円（対前年同期比3.3%減）となりました。

#### 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、F C 2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「牛・羊・豚・鶏を賑やかに食す！牧場焼肉フェア」、「ご好評にお応えして堂々復活！牛一頭食べつくし祭」、「夏の行楽にぎわいセット」、「冬のあつあつうまいもの祭」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアや「秋色スイーツ！和風デザート」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は15億79百万円（対前年同期比6.9%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1億72百万円（対前年同期比38.3%増）となりました。

#### その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は11店舗であります。内訳は直営4店舗、暖簾1店舗、F C 6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「AGRICCO(イタリアンカフェ)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は3億14百万円(対前年同期比30.3%減)となり、セグメント損失(営業損失)は7百万円(前年同期はセグメント損失19百万円)となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ8億6百万円減少し、144億55百万円となりました。これは主に、借入金の返済等により現金及び預金が減少したこと等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ11億60百万円減少し、87億8百万円となりました。これは主に、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ3億53百万円増加し、57億47百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上が要因です。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	21,504,347	21,504,347		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		21,504,347		3,182,385		147,735

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 113,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,222,000	21,222	
単元未満株式	普通株式 169,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,222	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式637株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	113,000		113,000	0.53
計		113,000		113,000	0.53

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,939,608	1,854,120
受取手形及び売掛金	338,957	331,878
商品及び製品	125,746	204,695
仕掛品	636	1,394
原材料及び貯蔵品	333,450	607,212
前払費用	211,335	203,000
繰延税金資産	75,643	46,195
その他	110,183	81,146
<b>流動資産合計</b>	<b>4,135,563</b>	<b>3,329,645</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	2,234,469	2,245,756
機械装置及び運搬具（純額）	43,314	46,001
工具、器具及び備品（純額）	172,699	173,822
土地	5,627,685	5,567,037
リース資産（純額）	21,310	166,014
<b>有形固定資産合計</b>	<b>8,099,479</b>	<b>8,198,632</b>
無形固定資産	105,238	107,616
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	72,438	93,041
長期貸付金	855,012	833,629
長期前払費用	28,259	21,284
繰延税金資産	79,492	69,950
敷金及び保証金	2,569,302	2,495,166
その他	53,420	41,934
貸倒引当金	735,974	735,462
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>2,921,951</b>	<b>2,819,546</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>11,126,670</b>	<b>11,125,795</b>
<b>資産合計</b>	<b>15,262,233</b>	<b>14,455,440</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	549,524	769,122
短期借入金	6,801,644	684,998
リース債務	11,553	47,521
割賦未払金	23,318	70,221
未払金	257,625	228,318
設備関係未払金	80,595	57,704
未払費用	509,233	502,592
未払法人税等	187,167	164,223
未払消費税等	84,408	152,641
賞与引当金	83,440	52,300
転貸損失引当金	3,217	3,217
その他	545,794	468,239
<b>流動負債合計</b>	<b>9,137,522</b>	<b>3,201,101</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	7,172	4,533,750
リース債務	19,721	138,336
長期割賦未払金	63,852	193,921
繰延税金負債	118,197	118,168
役員退職慰労引当金	284,093	295,092
転貸損失引当金	24,932	22,519
退職給付に係る負債	138,758	130,854
その他	74,534	74,534
<b>固定負債合計</b>	<b>731,261</b>	<b>5,507,178</b>
<b>負債合計</b>	<b>9,868,784</b>	<b>8,708,279</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	260,603	92,517
自己株式	67,871	68,154
<b>株主資本合計</b>	<b>5,391,171</b>	<b>5,744,009</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他の有価証券評価差額金	3,762	3,151
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>3,762</b>	<b>3,151</b>
新株予約権	6,040	
<b>純資産合計</b>	<b>5,393,448</b>	<b>5,747,161</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>15,262,233</b>	<b>14,455,440</b>

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	13,011,569	12,898,260
売上原価	4,692,057	4,608,552
売上総利益	8,319,511	8,289,707
販売費及び一般管理費	7,880,377	7,861,774
営業利益	439,134	427,933
営業外収益		
受取利息	24,501	23,483
受取配当金	1,695	1,784
受取地代家賃	8,165	7,817
貸倒引当金戻入額	511	512
その他	32,665	33,373
営業外収益合計	67,538	66,970
営業外費用		
支払利息	109,097	94,417
支払手数料		100,000
その他	10,067	11,951
営業外費用合計	119,165	206,368
経常利益	387,508	288,535
特別利益		
固定資産売却益		15,026
投資有価証券売却益	0	1
受取保険金		3,924
債務免除益		361,663
特別利益合計	0	380,616
特別損失		
固定資産売却損		2,593
固定資産除却損	1,756	4,251
減損損失	10,264	21,858
賃貸借契約解約損	30,074	8,514
特別損失合計	42,095	37,217
税金等調整前四半期純利益	345,412	631,934
法人税、住民税及び事業税	103,559	249,188
法人税等調整額	26,581	33,273
法人税等合計	130,140	282,461
少数株主損益調整前四半期純利益	215,271	349,472
四半期純利益	215,271	349,472

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	215,271	349,472
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,679	6,914
その他の包括利益合計	1,679	6,914
四半期包括利益	213,592	356,387
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	213,592	356,387

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	
(会計方針の変更)	
<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。</p> <p>この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が5,613千円減少し、利益剰余金が3,648千円増加しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。</p>	

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
(株)書楽	178,487千円	千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	273,470千円	301,008千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	11,083,222	1,477,607	450,740	13,011,569	13,011,569		13,011,569
セグメント間の内部売上高又は振替高							
計	11,083,222	1,477,607	450,740	13,011,569	13,011,569		13,011,569
セグメント利益又は損失( )	717,806	124,985	19,508	823,284	823,284	384,149	439,134

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては10,264千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	11,004,378	1,579,731	314,150	12,898,260	12,898,260		12,898,260
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	11,004,378	1,579,731	314,150	12,898,260	12,898,260		12,898,260
セグメント利益又は 損失( )	694,242	172,813	7,423	859,631	859,631	431,698	427,933

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

なお、当該変更が当第3四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては21,858千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	10円6銭	16円34銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	215,271	349,472
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	215,271	349,472
普通株式の期中平均株式数(株)	21,392,608	21,390,975
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	9円89銭	
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	369,750	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月12日

株式会社 安楽亭  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 小笠原直 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 木村直人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。